

関西教育行政学会

会 報

第 3 号

The Kansai Society for Educational Administration

〒606-8501

京都市左京区吉田本町
京都大学大学院教育学研究科内

関西教育行政学会事務局

TEL & FAX: (075)753-3080

Mail: kansaisea@gmail.com

HP: <http://ksea.jp/>

6 月例会のご案内

6 月例会は下記の要領で開催いたします。

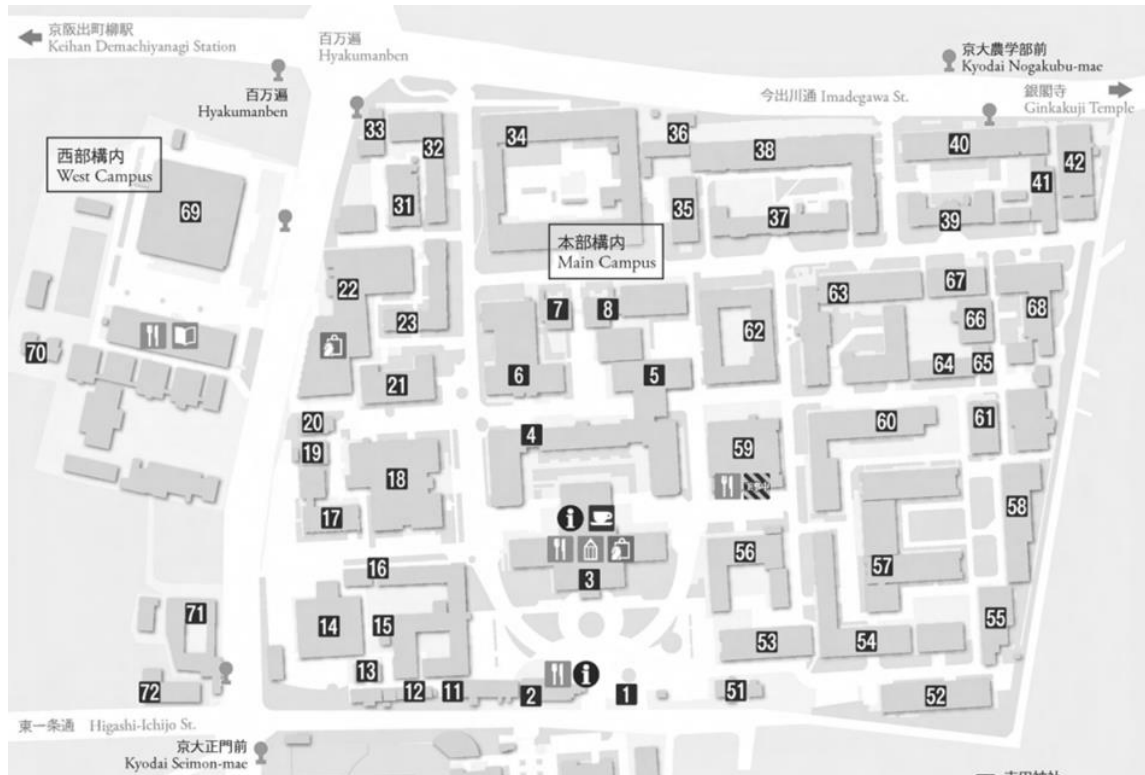
【日時】 令和 6 年 6 月 15 日（土）午後 2 時から午後 5 時まで

【場所】 京都大学吉田キャンパス総合研究 2 号館第一講義室（Zoom 併用）

【報告】 「米国カリフォルニア州のコミュニティカレッジにおける
トランスファー機能の強化に関する近年の政策動向」
浅田 昇平 会員（四天王寺大学）

「幼児教育・保育の制度・行政研究の諸課題
—子どもの権利保障の観点からの問題提起—」
秋川 陽一 会員（関西福祉大学）

【会場案内】 〒606-8501 京都市左京区吉田本町（総合研究 2 号館は、下図 34 の建物です。）



上図は、京都大学の HP (http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm)より引用しました。

➤ その他（今年度の事務局体制について）

事務局幹事：松本 圭将 会員（2020年4月1日～）
事務局補佐：岡澤 節 会員（2023年4月1日～）
山口 陽子 会員（2023年4月1日～）
山迫 花寧 会員（2023年4月1日～）
崔 秀妍 会員（2024年4月1日～）

【会員異動】

〈異動〉

大野 裕己 （兵庫教育大学）
桐村 豪文 （大阪教育大学）
森岡 俊輔 （静岡県総合教育センター）

〈新入会員〉

岩田 春菜 （京都大学・研究生） [推薦者：服部憲児（京都大学）]
崔 秀妍 （京都大学大学院・院生） [推薦者：服部憲児（京都大学）]

〈名誉会員〉

深川 八郎

〈退会〉

小松 茂久
佐野 博己
福西 清次

【4月例会の動画公開について】

4月例会の様相を収録した動画を YouTube に公開いたしました。下記の URL より視聴いただけます。

なお、動画の公開は5月末までとさせていただきます。5月以降に動画の視聴を希望される場合は、事務局までお申し出ください。視聴方法をご連絡いたします。

【名簿作成に関して事務局からのお願い】

昨年度の理事会にて決定したとおり、今年度から名簿は従来の紙媒体のものからデータ形式へと変更して発行いたします。

それと併せて、登録されている会員情報の確認方法を変更します。登録情報に変更のある方は、後日お送りするメールの案内に従って、事務局にご報告ください。

登録情報の確認が必要な方は事務局までご連絡いただければご案内いたします。

【例会報告のお願い】

例会報告について、会員の皆さまのご協力をお願いいたします。

報告をご希望の方は、例会担当の浅田理事、宮村理事もしくは事務局までご連絡をお願いいたします。

【会費納入のお願い】

2024年度学会費の納入をお願いいたします。一般会員は7,000円、学生会員は3,500円です。なお、名誉会員については学会費の納入は不要です。

会費の納入状況につきましては、遠慮なく事務局までお問い合わせください。

郵便振替口座番号： 01000-8-34227 加入者名： 関西教育行政学会

他の金融機関から当学会郵便振替口座へお振込みをしていただく際は、以下の振込用の店名・預金種目・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	109
店名(カナ)	一〇九店 (イチゼロキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0034227
カナ氏名 (受取人名)	カンサイキョウイクギョウセイガツカイ (全て大文字)

【事務局からのお願い】

所属、住所、メールアドレス等が変更になりましたら、お手数ですが事務局までご一報ください。

【事務局の連絡先】

住所：〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院教育学研究科内

電話：075-753-3080

Mail：kansaisea@gmail.com

【例会報告概要】

4 月例会	4 月 20 日（京都大学吉田キャンパス総合研究 2 号館第一講義室） 【司会】浅田昇平（四天王寺大学）
【報告】井料 央智 会員 高大連携を活用した進路先の拡充による魅力ある高校づくりに関する研究	
<p>2019 年、全国の公立高校の 43% 余りに当たるおよそ 1400 校で、募集定員を下回る「定員割れ」となり、以前に増して魅力ある高校づくりが求められるようになった。中央省庁の政策において、高校の特色化・魅力化が進められているが、これらは高校の内部課程に焦点化されており、卒業後の進路への言及は少ない。高校生の多くは進路や将来に多大な不安を抱えていることから、卒業後の進路先の確保やキャリア教育の充実が学校改革を進めるうえでの喫緊の課題といえよう。</p> <p>本研究では、高大連携を通じた入学者選抜に着目し、どのように進路先を確保していくことで生徒の進路をより魅力的なものにすることができるのか、戦略、経緯、入試制度の観点から明らかにした。近年、学校間の競争が激化している大阪府の公立高校 3 校を対象に SCAT 分析を行った。本研究の成果としては、以下の 2 点を指摘することができる。1 つ目は連携入試の内容に高校が積極的に関与にすることである。高校が教育委員会を介し、大学に積極的に発信することで新たな連携体制の構築、1 対 1 型の連携入試制度の展開に寄与すると考えられる。2 つ目は既存の連携体制を高校の特色に応じて戦略的に運用することである。これまで活用されていない連携入試でも高校の実情、校風、進学動向を鑑み、入試制度を改良していくことで生徒の魅力的な進路先の確保につながると考えられる。</p>	
【報告】村田 翼夫 会員（筑波大学名誉教授） 過疎地の特性を活かす創造的教育 — 地方衰退との関連に留意して —	
<p>昨年に『過疎地の特性を活かす創造的教育—美山町（京都府）のケースを中心に—』（編著）と題する本を出版した。本発表の目的は同本の内容紹介にあったが、過疎地は地方衰退と関連しているのでそのことにも留意した。最初に上田学氏の論稿を取り上げた。そこでは全国的な少子高齢化の進行と学校統廃合の問題に焦点を当てた。特に学校統廃合の推進に際し、財政的観点から優先され少人数教育のメリットが看過されてきたことを明らかにした。第 1 章の第 1～3 節では、美山町の教育の特色と問題を論述した。学校統廃合の経緯と廃校の利用方法（第 1 節）、統合された美山小学校の特色であるコミュニティスクールの導入と美山学の展開（第 2 節）、「山村留学センター」の意義と課題（第 3 節）である。第 2 章は、亀岡市にあるチョロギ村の過疎化対策と教育が主題であった。第 3 章は、京都久多における奥出さんの試み（いなか塾、村留学など）について述べた。「あしがき」において過疎地教育のメリットと課題をまとめておいた。メリットとしては、少人数教育、自然教育、学校と地域の協力、地域産業発展に資する教育など。課題では、行政による支援（広域行政を含む）、および教育改革の必要性（学習指導要領の柔軟化、教員異動への配慮、教育費補助の拡大）を指摘した。最後に、人口流失を防ぎ、若者の移住を促進する方法として重要な過疎地における産業発展の試みを紹介した。</p>	